

1. 件名：福島第一原子力発電所における実施計画の変更認可申請（2号機原子炉格納容器内部詳細調査）に係る面談
2. 日時：令和3年1月14日（水）13時00分～14時45分
3. 場所：原子力規制庁 9階会議室
4. 出席者
原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
知見主任安全審査官、伊藤係長、高木技術参与
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当2名

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社から、実施計画の変更認可申請（2号機原子炉格納容器内部詳細調査）について、資料に基づき主に以下の説明があった。

- 原子力規制庁からの確認事項に対する回答について
 - ✓ 内部調査で発生する廃棄物
 - ◇ 内部調査で使用する装置類（合計約90m³）について、使用後は瓦礫類として固体廃棄物貯蔵庫第7～8棟のいずれかに保管する計画である。
 - ◇ 当該廃棄物は、表面線量率に応じて、実施計画に定める廃棄物発生量予測に今後計上し、必要な保管容量を確保する見込みである。
 - ✓ Rゾーン装備を着用した作業員の暑さ対策
 - ◇ Rゾーン装備を着用した構内での他の作業と同様に、夏場の高温環境下等で作業をする場合には、5つの暑さ対策（作業前の体調確認、気温が低い時間帯での作業、クールベストの着用、未経験者の識別及びアノラック着用時間の短縮化）を実施する。
 - ✓ 作業に伴う原子炉格納容器（PCV）圧力上昇への対応
 - ◇ 1号機PCV内でのアブレシブウォータージェット（AWJ）を用いた切断作業（以下「AWJ作業」という。）において、AWJの噴射時間に応じてPCV圧力が上昇した実績から、2号機でも同様にAWJ作業時にはPCV圧力が上昇すると考えている。このため、AWJ作業の開始初期には短時間で作業を実施し、圧力上昇の傾向を確認した上で作業時間を決定することにより、PCV圧力を管理する計画である。
 - ✓ X-53ペネトレーション（以下「ペネ」という。）の耐震性評価
 - ◇ X-53ペネの耐震性評価は、X-53ペネの付け根部から隔離機構及びスプレイ治具を含めた範囲で実施しており、基準地震動S_sに対して健全性が確保されることを確認している。

○原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認した。

6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内部詳細調査 補足説明資料
- 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内部詳細調査 スプレイ治具の設置について